昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年12月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第12号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62

12月号

MONTHLY

かもつ

第4回理事会及び評議員・支部長合同会議を開催

鉄道輸送を再開した石巻港駅
12月から仙台貨物ターミナル駅間列車4往復に

公益社団法人 鉄道貨物協会

日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 第4回理事会及び評議員・支部長合同会議を開催
2 本部委員会の審議内容
4 利用促進会議開催　北海道支部
7 広島車両所公開に出展　広島支部
8 隅田川駅貨物フェスティバル2012開催　東京支部
9 鉄道コンテナ基礎知識講習会を開催　名古屋支部
10 鉄道コンテナ見学会を開催　東北支部
11 京葉臨海地区 コンテナ貨物駅設備見学会を開催
千葉支部
12 九州支部3地区で利用促進会議開催
大分・熊本・南九州地区
13 岡山支部・近畿支部利用促進会議開催
岡山・倉敷地区・京都分会

14 FREIGHT EYE

16 第19回「鉄道の日」イベント開催　新潟支部
17 お国自慢　学問の聖地・足利学校
18 会員企業紹介　黒沢建設株式会社
19 協会ニュース／リフレッシュクイズ

20 モーダルシフト　鉄道輸送を再開した石巻港駅
24 貨物駅の仕事ガイド
盛岡ICD事務所を併設
海上コンテナを取扱う盛岡貨物ターミナル駅
26 SPOTLIGHT
コンテナ輸送品質向上キャンペーン
28 トピックス
表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

第4回 理事会及び評議員・支部長合同会議を開催

● 期日：平成24年11月19日（月） ● 場所：如水会館（千代田区一ツ橋）

挨拶された田村社長

11月19日（月）如水会館に於いて、第4回理事会と評議員・支部長の合同会議が開催されました。冒頭米本理事長の挨拶の後、日本貨物鉄道株式会社社長 田村修二様から挨拶を頂き、その後、次の議案の審議が行われ、承認されました。

1. 平成24年度上半期事業報告について
2. 役員等の選任及び退任について
3. 平成24年度上半期会員等の入会及び退会について
4. その他

「講演会」の開催

合同会議終了後、会場を大ホールに移し、東京海洋大学大学院教授　苦瀬博仁様により「人々の暮らしを守る鉄道貨物輸送」と題して、物流の歴史的変遷、都市計画との関わり、東日本大震災からの教訓、救援物資や防災におけるロジスティクスからの提案など多角的な鉄道貨物輸送についての講演が行われました。

「歌の調べ」の開催

更に講演会の後、当協会本部初の催しとなる「歌の調べ」と題した演奏会が開催されました。演奏会は、仙台からお迎えしたソプラノ歌手 山内すみえ様とピアニスト 石川祐介様によるもので、アンコールを含めた14曲が熱唱され、会場を埋めた240名余りの観客はその迫力に感動し、余韻にひたりながら帰路につきました。

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

第6回 輸送品質向上委員会 (H24.11.16)

平成24年度第6回輸送品質向上委会では、次のテーマについて審議された。

■テーマ1

1.前回の委員会(第5回:H24.10.19)では、年間テーマ『荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及び養生材に関する調査研究と提案』に基づいて実施した、「コンテナ内装及び養生材に関する調査研究と提案」のヒアリング結果が報告された。

その報告の中で「段ボールが弱くなった」と言う意見や段ボールの湿度に関する耐性が報告された。

2.この報告に対し、「一部に誤解が生じる内容があったため」、当委員会の調査機関である、(株)日通総合研究所 物流技術環境部輸送環境試験所の中嶋理志所長より「包装管理士」としての専門的な見地から、補足説明がなされた。

3.「資料1」・「降水量と平均気温差の推移(新潟県新潟市)」を参照に次のとおりの所見が説明された。

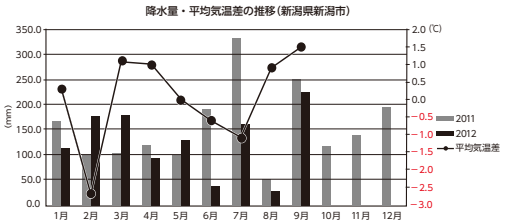
A.今年は新潟での例でみると、7月の平均気温が例年より1℃低く8月は1℃高かった。この平均気温の推移は、極めて重要な現象である。7月下旬に気温が急激に上がったころから全業界で段ボールの損傷事故が激増した原因である。

B.低温では空気は乾燥し、気温が上昇すると太平洋から湿った空気が大量に入り込んだため、段ボールは一気に水分を含んでしまったことが原因であることが説明された。

C.また段ボールは湿度が上昇するとどれだけ水分を含むかということと、含んだ水分量で強度が2～13%劣化すること、積み方によって棒積みを100としたとき交互積みでは耐圧強度は50%近く劣化することが説明された。

「資料1」●第5回輸送品質向上委員会(H24.10.19)審議資料より抜粋
「降水量と平均気温差の推移(新潟県新潟市)」

下記の図は、新潟県新潟市における降水量と平均気温差のグラフである。2012年を前年と比較すると、降水量は2～3月に多かった反面、6～9月は少なかった。また、平均気温差について前年を下回った(寒かった)のは2月、6月、7月だった。



(注)平均気温差は、2012年の各月平均気温に対する前年同月の平均気温との差を表す。
出所:気象庁Webサイト資料を基にジェイアール貨物・リサーチセンター作製

■テーマ2

(株)日通総合研究所　中嶋理志所長による事例発表

熱心に聞く各委員

1.事例発表

『輸送環境から見る事故対応事例』という題名で、(株)日通総合研究所 中嶋理志所長が本年6月15日に日本包装学会第58回シンポジウムで講演した内容を映像を用いて発表いただいた。

2.事例発表の目的

鉄道輸送以外の輸送モードの輸送品質を研究する。

3.事例発表の内容

A.国際海上コンテナ輸送

(1)コンテナ船の構造
(2)国際海上コンテナの種類およびスペック
(3)国際海上コンテナ輸送の流れ(輸出・輸入)
(4)国際海上コンテナの荷役方式、荷役機器

港湾荷役状況

※国際海上コンテナに限らず、港湾荷役はコンテナ吊り上げ荷役が基本である。

B.航空輸送

(1)航空貨物専用機の構造(メインデッキ・ロワーデッキ)
(2)ユニット・ロード・デバイス(ULD=UNIT LOAD DEVICE)
(3)国際航空貨物の流れ

航空コンテナの搬送風景

航空コンテナの搭載
(メインデッキローダー)

ULDパレット輸送(出典:日本通運(株)HP)

(4)国際航空貨物の荷役
ULDパレット(ジュラルミン製の板状のもの)は混載が基本で最大3mまで積み上げ行う。航空コンテナ内でも少量の場合はネットで覆いコンテナ床面から締め上げを行う。

C.海外の鉄道輸送

(1)Intermodal Train=Piggy Back
(2)Trailer On Flat Car,Container On Flat Car,Double Stack Train
(3)輸送中の振動・衝撃及びPSD(海上コンテナ輸送)

出所:freefoto.com

出所:ericrench.com

出所:answers.com

出所:reference.findtarget.com

D.トラック輸送

(1)コンテナ輸送機器の違いによる注意点(海上コンテナ輸送トレーラ)
(2)海外と日本ではトレーラーヘッドの車軸数が異なることがある。日本では一般にトレーラーヘッドの車軸数は2であるが、アメリカでは3軸であることが多い。この場合コンテナへの貨物積み付け位置が米国で真ん中に積んでも、日本ではトレーラーヘッドの後軸に負担が大きくなるので注意が必要である。
(3)その他、輸送振動加速度と荷台内の温湿度及びPSDのリーフサスペンション車とエアサスペンション車との違いについて

E.貨物事故とその対応事例

(1)結露における発生メカニズムとその発生防止対応方法
(2)濡損事故の発生メカニズム
(3)製品包装の事故(擦れ・潰れ)
(4)擦れ・潰れ事故の対応策例
(5)紙パレットの損傷例
(6)商品特性により、特に配慮する点(食品やワインなど)
(7)パレタイズ貨物(ユニットロード)についての留意点

■テーマ3

来年度の委員会審議テーマの選定に向けて

第5回 利用促進委員会 (H24.11.21)

平成24年度第5回利用促進委員会では、年間テーマとサブテーマに関する審議を行なった。

1.年間テーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進のための意向調査の実施および利用促進策の提案』

審議項目「調査報告を踏まえた課題の抽出」

A.鉄道コンテナ輸送の利用拡大に向けて改善が求められる点
(1)運賃・料金に関するもの　2件
(2)輸送障害時の対応に関するもの　5件
(3)荷物事故対策に関するもの　4件
(4)コンテナに関するもの　4件
(5)その他　7件

B.「もしあったら便利」と考えられる鉄道コンテナ輸送サービス
(1)運賃・料金に関するもの　3件
(2)コンテナに関するもの　8件
(3)養生材に関するもの　1件
(4)その他　3件

委員会では、項目ごとに抽出されたそれぞれの課題について想定される優先度(1～10点:高得点ほど優先される)、難易度(1～10点:高得点ほど難易度が高い)、時間軸(短期間での改善可能、5年程度の中期間を要する、10年以上の長期間を要する)等についての事務局案を基に委員の意見交換を行った。更に、委員会委員全員に対しても「優先度」・「難易度」・「時間軸」に関する意向を確認し、次回委員会において委員会総意としての課題抽出のまとめの審議を行うこととなった。

2.サブテーマ『鉄道コンテナ輸送の利用促進に資する拠点およびインフラのあり方に関する調査研究』

審議項目「新たな鉄道コンテナ取扱施設の検討候補地(検討対象)の選定について」

前回の委員会において、今後の調査研究の進め方についての一定の方向性が確認されたことで、今回の委員会では、具体的分析手法を含めた調査研究方法の事務局案について審議を行ない、下記の通り確認された。

A.新たな鉄道コンテナ取扱施設の候補地の選定に関する調査研究方法
(1)アンケート調査結果において設置ニーズの高かった地域
アンケート調査結果において設置ニーズが高いと判断され、かつ周辺に貨物駅等がない空白地域を検討候補地とする。
(2)地域経済データから潜在貨物量が多いと推測される地域
製造業製品出荷額等、卸売販売額が多く(発および着の潜在貨物量が多いと推測できる)、かつ周辺に貨物駅等がない空白地域を検討候補地とする。

B.今後の作業の進め方について
(1)空白地域の抽出(経済産業省「工業統計調査」における各工業地区のうち、中核となる市町村の中心部が貨物駅・ORS・コンテナ営業所から直線距離で30km以上離れている空白地域を対象。当該地域のうち、製造品出荷額等(平成22年)が3,000億円未満の地域は除外。)
(2)空白地域における潜在貨物量の推計
a.前提(製造業における製品出荷量を推計するに当たり、産業中分類ベースにおける24業種のうち、貨物の特性他等を勘案し、対象から除外する業種を指定した。)
b.製造業における製品出荷量ならびに入荷量の推計(製造品出荷額等から発着別貨物量の推計。)
c.卸売業における卸売販売量(出荷量)ならびに入荷量の推計(卸売業年間商品販売額から発着別貨物量(業種計)の推計。)
(3)空白地域における鉄道コンテナ利用の潜在貨物量の推計
a.製造業における発着別鉄道コンテナ利用潜在貨物量の推計
b.卸売業における発着別鉄道コンテナ利用潜在貨物量の推計
(4)12ftコンテナ換算基数の計算
(5)採算が取れると見込まれる地域の抽出

C.新たな鉄道コンテナ取扱施設の検討候補地(検討対象)
(1)アンケート調査結果において要望の大きかった地域
(2)工業地区における空白地域
次回委員会では、上記理論構成による調査研究を進めていくことが確認された。

3.来年度の審議テーマの選定に向けて

来年度の取り組みテーマを検討するため、現在における各委員が調査研究されたい意向についての事前集約を行い、次回委員会以降に来年度の取組みテーマについて審議を行なうこととした。

北海道支部

平成24年度 利用促進会議開催

●期　日：平成24年10月31日(水)
●場　所：札幌すみれホテル 会議室
●出席者：26名

□JR貨物コンテナ品質管理部犬飼部長による説明
「鉄道コンテナにおける輸送品質の現状と対策」
「コンテナ輸送品質向上キャンペーン実施内容について」
□輸送途上のコンテナ内部の状態を記録した動画の視聴
□JR貨物苫小牧営業支店阿部支店長による説明
「適合コンテナ拡大に向けたゴムマットの導入」
※王子製紙様 製品輸送品質向上に向けた取り組みについて報告

JR貨物コンテナ品質管理部 犬飼部長

JR貨物苫小牧営業支店 阿部支店長

●意見交換（以下詳細）

王子物流株式会社
苫小牧事業所 宮野所長

○苫小牧工場出荷の製品（巻取紙）は、8割が新聞、2割が雑誌・チラシ用に提供。

○通常、巻取紙は長さ1.6mで1本の重量は1.0トンであり、12ftコンテナに5本積載。

○近年、包装を簡略化する動きが進んでいる。そのため、床面に石、ささくれがあると簡単に巻取紙の鏡面に傷が入る。新聞は高速印刷（1Hに約15万部）の為、下面に傷があり、気付かずに輪転機を廻すと故障してしまう。通常朝の2時に印刷が終わるところが、この故障により2時間遅れた場合、配達が大幅に遅れることとなる。読者の皆様に大変迷惑をおかけすることもあり非常にシビアに見られている。

○今回、石踏みを少しでも減らすため増送区間においてはゴムマット（短冊状）を敷く対応を行った。併せて巻取紙同士の擦れを防止するため、硬質ウレタンを巻いている。なお、エアーバックの場合、お客様の元で空気を抜くことや、回収・折り畳み作業と時間がかかるため使用していない。

○試験輸送を通じて、貨車積載時、ゴムマットを使用する場合、2・3・4位は、硬質ウレタン巻を省略しても大丈夫だとわかった。ただ、1・5位は車輪の影響もあり引き続き硬質ウレタン巻を使用している。今のところ、荷傷は大きく減少している。

○トラックは、ウィングシャーシ、平シャーシを使っているが、10年経過してくるとコーキング材が硬化して水漏れが発生したり、微振動により擦れが発生してしまう。なお、エアサスシャーシは微振動による擦れは発生しない。鉄道の微振動や濡損をどう防ぐかこれからもテーマとして望む。

サッポロ流通システム株式会社
ロジスティクス推進部 相沢部長

○当社はサッポロビールの子会社として輸送・保管・荷役を担っており、ビール・飲料水を運んでいる。昔から鉄道輸送を利用し、現在、道内の特約店向け配送や、本州と北海道の拠点間輸送で利用している。

○輸送面の品質では、以下の3点が課題である。

（1）荷擦れ

長年やってきた対策のノウハウがあり、通常は当社で養生している。ラップと巻き段ボールを使用しているが、拠点間輸送は、当社が独自に開発した荷ロックベルトを採用し、採用以降荷崩れ事故は大きく減った。

（2）微振動

①カートン自体が製品として見られているため、ちょっとした擦れやよれは全て返品となる特約店が増えている。

②トラックについては数年前からエアサス車を導入している。

③鉄道コンテナの場合、カートンのバーコードが読めない、酷いものでは缶の地金が出ていることもある。

④微振動はなかなか問題に直接関与出来るものではないので非常に苦しい。王子物流様で対応したような事例を、数値化して誰しもに公開して欲しい。また、貨車の微振動防止ゴムも装着した貨車と、していない貨車の違いを数値化して教えて欲しい。これからも改善頂くよう切に願っている。

（3）コンテナ臭気

過去には魚や肥料の匂いが届け先で気付いて大問題になったが、最近は、ほとんど臭気は発生していない。使用前に人間の鼻で確認している。

大塚倉庫株式会社
札幌営業所 木村所長

○当社は、日々飲料・医薬品を釧路から遠いところでは沖縄も含め全国網羅して輸送している。

○微振動防止は永遠のテーマであり、JR貨物北海道支社と取り組んでいる。この7月に王子物流様の防振ゴムマットの紹介を受け試験輸送を行った。しかし、クッション性の問題からケースで出荷しているものには効果がなく残念な結果となった。現在、もっと柔らかい素材で微振動を吸収出来ないか打合せを進めている。試験輸送を実施、効果があればその他製品輸送で導入したい。

○試験輸送時にエアーバックで微振動を防ぐことも試みたが、効果はなかった。

○釧路発の場合の課題では、進行方向が途中で変わることから、進行方向向けに対策をとっても対応出来ない。

日本甜菜製糖株式会社
販売部 前田部長

○当社の出荷商品は砂糖であり、破れ易い紙袋が中心である。

○JR貨物と利用運送事業者の向上には目を見張る。良質の輸送に変わって来ている。

○整理整頓清掃、奇麗なコンテナを持って来なければ、食品は駄目。納入先で汚いコンテナが来たら中身もおかしいのではと指摘を受けてしまう。壁のササクレ、ガムテープ、コンテナの天板、外面のチェックも日頃からやることである。

○荷扱いは、近年、客から厳しく言われるようになってきたので、作業に携る人の理解が必要。事故発生時は、現場で作業員の方に復習頂き、当方も利用運送事業者へ意見をいう。作業員の方が変わる場合は、都度ミーティングを開いている。

○鉄道輸送時、振動は避けられないことは承知している。貨物に支障がないよう輸送モードを変えながら対応している。良いものは良いとして、更なる努力を願いたい。

ホクレン農業協同組合連合会
物流部 溝渕課長

○弊会は、農産品の取扱を行い、JRを利用している輸送品目は馬鈴薯･玉葱が多い。基本的な荷姿は段ボールであり、米･砂糖については紙袋、フレコンバックである。
○現在、荷擦れ、荷つぶれの事故は少ない。段ボールも同一の規格が多いので納まりが良い。
○JRコンテナの微振動を要因とした大きな事故はここ10年程少ない。これまでは都度改善して頂いており、現状不満はない。
○強いてあげるとすれば、5～6年前、馬鈴薯輸送の一部についてパレット輸送に変更した際に、手積み輸送より隙間が多いので荷擦れ事故が起こったが、エアーバックを使用し改善している。
○袋物の擦れ、濡損事故は、昔多かったがかなり改善された。とはいえ、米や砂糖の濡損は商品価値がなくなる。これもひとえに、利用運送事業者側のコンテナの使用前のチェック体制･養生等きちんとしており、利用運送事業者の貢献度が高いと思われる。

札幌通運株式会社
札幌貨物ターミナル支店 石黒支店長

○本州→北海道到着の貨物は食料工業品が多く、納品時のチェックが厳しい。カートン自体が商品となっている。今年になってから、大手荷主から鉄道輸送に伴う擦れが営業サイドからクレームとしてテーマアップされている。
○擦れの対策は手段が限られる。色々なものを使ってもコスト面の制限や、ワンウェイによる廃棄問題がつきまとう。モーダルシフトの提案なのに、廃棄はお願いしますというのではクレームがついてしまう。
○お客様は、自然災害の遅れには理解があるが、「擦れ」の問題は理解頂けない。これといった養生資材がない状況であり、根本的な解決をして頂きたい。お客様からこの問題の解決をと直接問いかけられても、応える術がない状況。

北海道ジェイアール物流株式会社
竹村常務取締役

○コンテナ内の清掃、ガムテープ等の処理は利用運送事業者の努力で解決可能。当社では取り組みを強化し、ここ10年事故は発生していない。
○長く輸送に携わっているが、微振動の問題には一番長い間闘い続けてきた。微振動はどうしても避けられないため、いかに防ぐかは長年の経験やドライバーとの日々の打合せ等小さなことからこつこつと行い、出来ることからやってみるということで事故を防いでいる。
○本州からの到着貨物でパレットから擦れが発生し、クレームが発生した事例があったが、発利用運送事業者へのアドバイスから事故がなくなる事例もあった。全員の知恵出しにより対応できることもある。
○養生は利用運送事業者の責務だと思っており、これからも鉄道事業者と一体となり対応していきたい。

日本通運株式会社
渡部常務執行役員

○品質向上無くしてモーダルシフト無し。
○JR貨物から王子物流様の事例等現場の改善事例が紹介された。しかし、この問題はそれぞれの現場でやるのではなく、ある種の段ボールはどう擦れるとか、巻取紙はこうやって積載すればよい等、商品の養生対策は中央から全国へ配信することがJR貨物の役目ではないのか。
○安定輸送について、例えば、霜注意報が出たら農家では、タイヤを一晩中燃やして霜が降りないように防ぐ。もし、そうであれば、鉄道事業者側で雪が降るとわかっているのであればどうして対策を講じないのか。大雪で止まりましたでは、お客様の理解を得られなくなってきている。雨で、土砂崩れの発生は仕方がない、しかしながら雪害は防げるのではないか。
○江差線の脱線事故は未だ原因が判明しないと聞いている。対策を講じないでどうして列車を走らせるのか。この体質をどうかと思う。究明を急いで欲しい。
○想定外はなしにして、安定輸送を実現していただきたい。これがフォワーダーとしてのキャリアへのお願いである。

北海道通運株式会社
松井社長

○九州から食品が到着する。段ボールに擦れがあると、2次配送が駄目となる。これまでは、段ボールを用意して（中身を）入替えしていたが、段ボールが弱くなっており、輸送途中に下の段ボールがつぶれることまで生じている。これは焼却廃棄処分となる。
○商品事故をなくす方法はないか、メーカー･発利用運送事業者と定期的に会議をするがなかなか思うようにいかない。

日本石油輸送株式会社
北海道支店 花岡支店長

○発送では、青果物が中心で、荷擦れは殆どない。到着については、飲料水･食料工業品が多く段ボールに擦れ事故が発生している。青函トンネル内の湿度は年中80%強であり40分間走行することからの濡損事故もある。
○防振コンテナを研究している最中だが、防振コンテナの試作品を作ったある段階で、①荷ロックベルト②防振マット③防振コンテナのテストを行ったが、現時点では荷ロックベルトが一番「擦れ」がなかった。現在、原因究明中だが、防振コンテナを引き続き成果が出るよう取り組んでいく。

第19回 JR貨物フェスティバル

広島車両所公開に出展

広島支部 ● 期日：平成24年10月28日（日） ● 場所：JR貨物関西支社広島車両所

10月28日（日）広島市東区JR貨物関西支社広島車両所において「第19回JR貨物フェスティバル広島車両所公開」が開催され、家族連れや全国からの鉄道ファン約10,000人が来場されました。

広島支部はパズルコーナーを出展しました。終了間際まで多くの方々に挑戦いただき、エコレールマークの名前とキャラクターを覚えていただくことができました。また、着ぐるみの「エコレールマークちゃん」は、子供たちと握手したり機関車の撮影会に参加したりと認知度アップに大活躍でした。

その他、貨物社員手作りのNゲージや様々な機関車の展示、準鉄道記念物D521の運転室公開、当日限定のオリジナルグッズの販売等で来場者に鉄道貨物輸送を身近な存在として親しんでいただくことができました。

「エコレールマークちゃん」も大変な人気です

協会のブースは多くの来場者で賑わいました

エコレールマークのパズルに夢中でした

「エコレールマークちゃん」と思い出の記念写真

隅田川駅貨物フェスティバル2012開催

● 期日：平成24年10月28日（日） ● 場所：JR貨物隅田川駅

JR貨物関東支社営業部・東京支部共同参加

平成24年10月28日（日）東京都荒川区南千住の隅田川駅で、「隅田川駅貨物フェスティバル2012」（主催:JR貨物、後援:荒川区、協力:南千住警察署・荒川消防署・株式会社あらかわTMO）が開催されました。当日は雨にもかかわらず、地元の方や鉄道愛好家を中心に11,000人もの多くの方々が訪れました。

今回は目玉として「JR貨物31ftコンテナ」を一般初公開し、また機関車・貨車・コンテナ展示や、子供運転士制服での記念撮影会、産地直送野菜100円販売、復興支援物品販売、オリジナルグッズ・鉄道部品販売&入札など、数多くの催しを行いました。

当支部はJR貨物関東支社営業部と共同で、20ftコンテナでブースを作り、エコレールマーク商品の展示や子供達にはジグソーパズルを通し、自然とエコレールマークを覚えて頂く等、ご来場者に理解を深めて頂くことが出来ました。また同時に大勢の貨物鉄道のファンが集まる機会を活用し、貨物時刻表の販売も行いました。この事で鉄道貨物輸送の重要性を知って頂くこととなりました。

大好評のうちに終了した今回の催しで、地元の方に楽しんでいただく事により社会貢献をすると共に、鉄道貨物利用の理解と信頼を深めることができました。

来場者の方と楽しそうでした

ジグソーパズルにチャレンジ!! 一番は誰かな?

31ftコンテナの前で「エコレールマークちゃん」もハイポーズ

第11回 鉄道コンテナ基礎知識講習会を開催

名古屋支部 ● 期日:平成24年10月25日(木) ● 場所:名古屋貨物ターミナル駅講習室

事例紹介などに興味深く聞き入っていました

鉄道貨物協会名古屋支部では10月25日(木)に今回で11回目となる鉄道コンテナ基礎知識講習会を、名古屋貨物ターミナル駅会議室において開催しました。

会員各社から33名の方が受講し、JR貨物須藤次長(営業担当)の挨拶の後、中部運輸局交通環境部物流課長黒木徹様の講演を受け、またコンテナの現物(JR12ftコンテナ、災害廃棄物輸送用UM8A型12ftコンテナ)及びコンテナ貨車の実物を見ながら安全機能などの講習を受け、最後に感想などのアンケートをお願いして1日を終了しました。次年度以降も、内容を充実して開催していきます。

講習内容は、次のとおりです。

1.物流を巡る情勢の変化とモーダルシフトの実例
●講師中部運輸局交通環境部物流課長 黒木 徹氏

2.列車運行の仕組み及び指令業務
●講師:JR貨物東海支社輸送指令係長 高田 信氏

3.会社概要及び鉄道コンテナ運賃計算、運送約款について
●講師:JR貨物東海支社営業企画主席 登尾 潤也氏

4.コンテナの特徴と機能
●講師:JR貨物東海支社担当課長(検修)福西 隆夫氏

アンケートの主な内容は

1.列車遅延時、運休手配時の対応や旅客会社とのダイヤ折衝などの実情が分って良かった。
2.運賃･料金の算出問題を解くということで理解を深めることができた。
3.スライド説明を受けた後、実際に実物を見ながら説明をしていただいて良かった。等の内容を多く頂いた。

コンテナ貨車の実物で安全機能等の講習

真剣に耳を傾ける参加者の皆さん

12ftコンテナの内部機能を間近に見学

第2回 鉄道コンテナ見学会を開催

東北支部 ●期日：平成24年10月24日（水） ●場所：仙台貨物ターミナル駅

東北支部では、10月24日、仙台貨物ターミナル駅において仙台地方通運業連盟（仙通連）、東北運輸局、東北経済産業局、東北経済連合会と共同で東北各地から応募のあった顧客企業等の約50名を対象に2回目となる「鉄道コンテナ見学会」を開催しました。

第一部は、高床ホームを会場に、冒頭JR貨物真貝東北支社長が「是非ご利用を検討いただきたい。」と挨拶、米川駅長の駅概要説明に続き、峯支部事務局長からコンテナの種類・導入事例などについて、仙通連の本宿局長から鉄道コンテナ輸送のメリットについて、それぞれプレゼンを行いました。

第二部は、コンテナホームに会場を移し、JR汎用コンテナ、冷蔵コンテナ、災害廃棄物専用コンテナ、ISOタンクコンテナ等各種コンテナの展示・説明と大型荷役機械による荷役デモンストレーションを実施、特に31ftコンテナの迫力ある荷役作業は参加者の関心を集めました。報道関係者も取材に訪れ、テレビや新聞に取り上げられ鉄道貨物輸送の認知度向上に大いに役立つ見学会となりました。東北支部はこれからも統合効果を発揮し、各県部会事務局と連携した活動のスケールアップ、活性化により鉄道貨物輸送とエコレールマーク事業の認知度向上に向けて積極的な活動を企画・展開して参ります。

※安全を確保した上で、ヘルメット・安全チョッキ着用を省略して見学会を実施しています。

31ftコンテナで迫力ある荷役デモンストレーション

各種コンテナ及び鉄道貨物輸送の利点の説明がありました

京葉臨海地区
コンテナ貨物駅設備見学会を開催

千葉支部 ●期日：平成24年10月25日（木） ●場所：京葉久保田駅・玉前駅・千葉貨物駅

京葉久保田駅
大型コンテナ利用の説明

玉前駅
駅概要説明を聞く出席者の皆さん

千葉貨物駅
12ft･20ftコンテナ利用の説明

千葉支部では、10月25日（木）に京葉臨海地区コンテナ貨物駅設備見学会が開催されました。既に鉄道を利用されている企業や現在鉄道利用を検討されている企業の中から21名が参加されました。

バス車内で鉄道コンテナ輸送の仕組みや各駅の特徴の説明を受け、見学場所である京葉久保田駅⇒玉前駅⇒千葉貨物駅へ移動し様々なコンテナや荷役作業を見学をしました。

最後にアンケート調査を実施し、貴重なご意見をいただき駅設備見学会は終了しました。

※安全を確保した上で、ヘルメット･安全チョッキ着用を省略して見学会を実施しています。

千葉貨物駅CTCセンター

千葉貨物駅屋上からの構内風景

平成24年度
九州支部3地区で利用促進会議開催

大分地区利用促進会議

●期日：平成24年10月18日(木)
●場所：大分センチュリーホテル

質疑応答で活発に議論されました

平成24年10月18日、大分市内の大分センチュリーホテルにて大分地区利用促進会議を開催しました。当日は、ご来賓・会員様・協会関係者合わせて18名の参加がありました。

始めに議長の日本通運(株)大分支店 春日支店長、ご来賓であるJR貨物九州支社 麦谷次長からご挨拶を頂きました。その後、議題である「平成25年春ダイヤ改正」や「鉄道利用促進における課題」、「当協会の今年度の活動状況」などの説明があり、鉄道利用の促進については質問、要望も含め活発な意見交換が行われ、会員の皆様から貴重なご意見を頂く事ができました。

熊本地区利用促進会議

●期日：平成24年10月22日(月)
●場所：ホテルニューオータニ熊本

出席者からの意見・要望等について意見交換が行われました

九州支部熊本地区利用促進会議は、平成24年10月22日にホテルニューオータニ熊本で開催しました。熊本地区議長である日本たばこ産業(株)西日本原料本部横山本部長とJR貨物九州支社麦谷次長から挨拶をいただきました。その後、鉄道貨物輸送の動向、平成25年3月ダイヤ改正、鉄道貨物協会九州支部の活動報告、会員の皆様からコンテナ利用促進に向けたご意見、ご提案、ご質問をいただきました。昼食のなかで、JR貨物九州支社から回答を行い、懇親を深めました。

南九州地区利用促進会議

●期日：平成24年10月25日(木)
●場所：ホテルタイセイアネックス

熱い議論が交わされた会議でした

南九州地区では、約2年ぶりとなる利用促進会議を開催しました。当日はご来賓・会員様合わせて17名の参加を頂きました。

始めに議長とご来賓のあいさつを頂き、議題である
①最近の鉄道貨物輸送概況
②平成25年3月ダイヤ改正
③鉄道貨物協会の活動状況
について説明がありました。その後「鉄道利用促進における課題」について会員様・JR貨物との意見交換を行い、列車遅延対応やコンテナ荷物事故防止など活発な意見交換会となりました。

平成24年度
岡山支部・近畿支部利用促進会議開催

岡山地区利用促進会議

●期日：平成24年11月12日(月)
●場所：三好野本店

鉄道貨物輸送等について活発な議論が行われました

岡山支部(岡山地区部会)では、11月12日(月)に平成24年度岡山地区利用促進会議を岡山市の三好野本店にて開催、ご来賓・会員様合わせて20名のご出席をいただきました。

冒頭に地区部会の世話役であるJR貨物西岡山駅 中塚駅長、地区部会長の岡本康一様(大正製薬(株)岡山工場長)、JR貨物岡山支店 白木支店長に挨拶をいただき、地区部会長の司会により議事を進行、事務局から「岡山支部事業報告」の後、JR貨物岡山支店より「平成24年度秋冬期対策」、「平成25年春ダイヤ改正(案)」ならびに「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」について説明をいただきました。

出席者からは「山陽線で頻発する鹿との衝撃による輸送障害の対策」、「キャンペーンで取り組んだ養生資材の支援策」など鉄道貨物輸送についての活発な議論を行ったほか、来春のダイヤ改正で開業予定の吹田貨物ターミナル駅についての質疑応答やコンテナ輸送中の微振動対策についてのご意見などを伺い、相互に理解・親睦を深める良い機会となりました。

倉敷地区利用促進会議

●期日：平成24年11月14日(水)
●場所：ホテル日航倉敷

出席者からの要望等で様々な意見交換を行いました

岡山支部(倉敷地区部会)では、11月14日(水)に平成24年度倉敷地区利用促進会議を倉敷市のホテル日航倉敷にて開催しました。

冒頭に地区部会の世話役である川崎廣志様(水島臨海鉄道(株)代表取締役専務)、地区部会長の日髙和重様(三菱化学物流(株)理事中国支社長)、JR貨物岡山支店 白木支店長に挨拶をいただき、地区部会長の司会進行により議事に入りました。会議では事務局から「岡山支部事業報告」を説明し、その後JR貨物岡山支店より「平成24年度秋冬期対策」、「平成25年春ダイヤ改正(案)」ならびに「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」について説明をいただきました。

当日はご来賓・会員様合わせて22名のご出席をいただき、出席者からは「需要の多い両側開きコンテナの投入計画」、「年末年始期等の貨物列車運転計画の案内方」など鉄道貨物輸送について様々な意見交換を行い、来春のダイヤ改正で検討中の列車体系についての質疑応答やIT-FRENSシステム画面についてのご要望などを伺い、相互理解を深める機会となりました。

京都分会利用促進会議

●期日：平成24年11月15日(木)
●場所：しょうざん光悦芸術村

熱心に意見・要望等の審議がありました

近畿支部京都分会では、11月15日(木)京都市内において京都分会利用促進会議を開催しました。当日は荷主企業、利用運送事業者各社より、21名の方にご出席頂きました。冒頭、地区分会長の(株)中央倉庫 芝様を始め、ご来賓のJR貨物関西支社 神立支社長、伊藤京都貨物駅長よりご挨拶を頂きました。利用促進会議では、京都分会事務局より京都分会の活動報告や近畿支部の今後の事業計画についての説明があり、平成25年ダイヤ改正について意見交換を行いました。その後、懇親会を実施し親睦を深めました。これからもお客様・利用運送事業者・駅が一体となって円滑に運営できるよう連携を図って行きたいと思います。

勢揃いした東新潟機関区のみなさん

第19回「鉄道の日」イベント開催

新潟支部 ●期日：平成24年10月21日（日） ●場所：東新潟機関区・新潟駅南口広場・新潟新幹線車両センター

【新潟鉄道大感謝祭2012】

10月21日（日）に、主催;「鉄道の日」北陸信越地方実行委員会 共催;JR貨物新潟支店・JR東日本新潟支社・（株）トッキーで「新潟鉄道大感謝祭2012」を東新潟機関区・新潟駅南口広場・新潟新幹線車両センターの3会場にて開催されました。

当日は朝から雨模様となり来場者に影響があるかと思われましたが、その後、曇り空となり3会場では東新潟機関区は約3千人、新潟駅南口広場が約6千人、新幹線車両センターでは約1万2千人の来場者がありイベントとしては盛況となりました。

新潟支部では、東新潟機関区で貨物時刻表の販売を実施し、JR貨物と併せて協会PR活動が出来たと思っております。

時刻表及び関連グッズを販売しました

挨拶されたJR貨物土井新潟支店長

お国自慢

日本最古の学校

学問の聖地・足利学校

足利市は栃木県南西部に位置し市の北部に足尾山地、南部に関東平野が広がり、中央部を渡良瀬川が流れており、JR宇都宮線小山駅から両毛線に乗り換え足利駅を降りれば様々な観光地（下記）が案内されていますので一度は訪れたくなる観光スポットです。

- **日本最古の学校「足利学校」**
- **「鑁阿寺（ばんなじ）」**
- **藤棚樹齢145年の「足利フラワーパーク」**
- **世界が認めたワイン「ワインの里ココ・ファームワイナリー」**
- **世界最大級の陶磁美術館 伊万里・鍋島のみ展示する「栗田美術館」**
- **「相田みつを」のゆかりの地等**

担当:宇都宮支部（佐藤 光子）

足利学校の正面入り口

江戸時代の姿で復元された校舎

足利学校・自学自習の精神を今に伝える教育の原点

創建について、鎌倉時代の足利義兼説などがありますが、歴史が明らかになるのは、室町時代の永享11年（1439年）関東管領・上杉憲実（うえすぎのりざね）が、現在国宝に指定されている書籍を寄進し、鎌倉円覚寺から僧・快元（かいげん）を招いて初代の庠主（しょうしゅ＝校長）とし、経営にあたらせるなどして学校を再興してからです。応仁の乱以後、学問の灯を絶やすことなくともし続け、学徒三千といわれるほどに隆盛し、天文18年（1549年）宣教師フランシスコ・ザビエルにより「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と西洋に紹介されました。江戸時代の末期には「坂東の大学」の役割を終え、明治5年に幕をおろしましたが、廃校直後から有志による保存運動などにより、平成2年 足利学校の江戸時代中期の姿が復原されました。足利学校は日本最古の大学としてしられるように、ここから日本の学校教育が始まったといえるでしょう。

足利学校のQ＆A

- **生徒はどんな人…**
  学生は全国から、大半が僧侶
- **学費はいくら?…**
  学費はなく食事と宿舎を提供
- **授業の内容は…**
  孔子の教えに基づく儒学、自学自習が基本
- **校則はあったの…**
  「学問の内容や規則をまもる」「就学熱心」「僧侶の身分となる」
- **何年で卒業…**
  何年制は定めていない。自分自身の納得するまで（自学自習）

足利学校に隣接する鑁阿寺（ばんなじ）

足利学校に隣接する鑁阿寺（ばんなじ）は、室町幕府を興した足利家の居宅跡で、永禄7年（1564年）足利幕府13代将軍義輝が再建したもので、栃木県指定文化財になっております。四方に塀と土塁が張り巡らされていて、東西南北にある橋を渡らなければ中に入ることができません。境内は四季折々の草木であふれ季節ごとの美しさを楽しむ事ができます。

黒沢建設株式会社

〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階 TEL(03)6302-0221(代表)
http://www.kurosawakensetu.co.jp/

「震度7でも被害ゼロ」を追求した超耐震建築

PC圧着関節工法は、PC圧着技術研究所が推奨する建築技術。

黒沢建設は、柱･梁接合部にあご(Corbel)を設けた画期的な建築技術「PC圧着関節工法」を開発。プレストレストコンクリート造(PC造)をさらに進化させ、震度7対応の超耐震性能を可能にしました。PC圧着技術研究所は、この「PC圧着関節工法」を推奨し、耐震技術の向上のために多くの学識経験者による委員会を構成して、その普及に努めています。

PC架設状況(柱の突起がCorbel)

PC圧着技術研究所

委員長	中野 清司	東京電機大学名誉教授、元･建設省建築研究所所長
委　員	秋山 宏	東京大学名誉教授、元･日本建築学会会長
委　員	坂田 弘安	東京工業大学建築物理研究センター教授
委　員	立花 正彦	東京電機大学教授
委　員	田邉 恵三	PC圧着技術研究所技師長
委　員	町田 重美	㈱東京建築研究所社長
委　員	松崎 育弘	東京理科大学名誉教授
委　員	山内 泰之	㈱日本建築住宅センター副社長
委　員	和田 章	日本建築学会会長、東京工業大学名誉教授

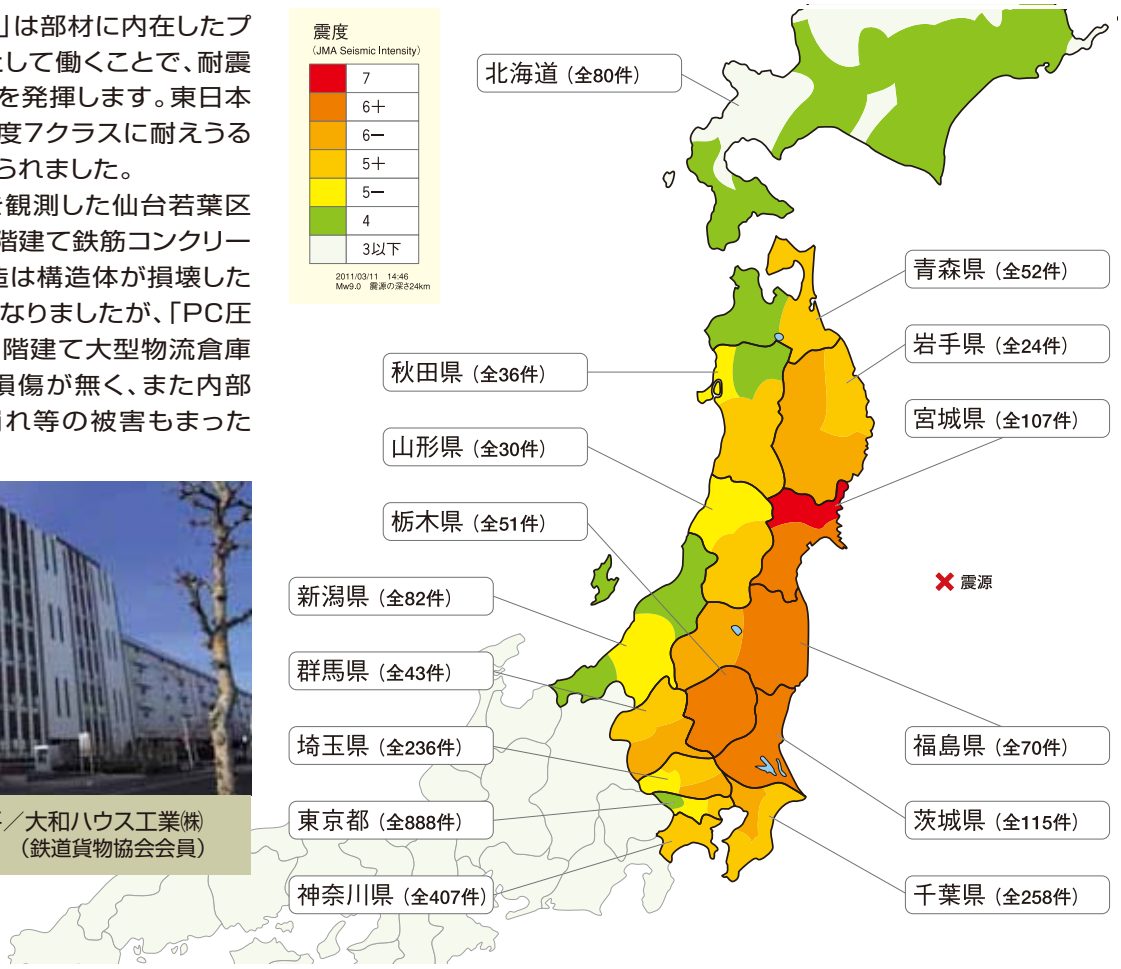
※五十音順(2012年10月現在)

東日本大震災で実証。建物被害無し、荷崩れ無しの物流倉庫。

「PC圧着関節工法」は部材に内在したプレストレスが復元力として働くことで、耐震効果および制震効果を発揮します。東日本大震災においても震度7クラスに耐えうる数々の実証結果が得られました。

例えば、震度6強を観測した仙台若葉区にあって、隣接する4階建て鉄筋コンクリート造や2階建て鉄骨造は構造体が損壊したことにより取り壊しになりましたが、「PC圧着関節工法」による5階建て大型物流倉庫は構造体にまったく損傷が無く、また内部保管物の転倒や荷崩れ等の被害もまったくありませんでした。

Dプロジェクト高島平／大和ハウス工業㈱
(鉄道貨物協会会員)



※表示の件数は、これまでの各都道県別のPC圧着関節工法による建築物の建築件数です。
東日本大震災後の調査により、そのすべての建築物の構造体がほぼ無損傷であることが確認されました。

◎黒沢建設は、PC建築の技術を活かし、JRのPC枕木を製造、鉄道輸送に寄与しています。

第14回 エコプロダクツ2012へのご案内

●期日：平成24年12月13日(木)～15日(土) 3日間
●時間：10:00～18:00(12月15日は17:00まで)
●場所：東京ビッグサイト東展示場1～6ホール
エコレールマーク展示ブースを第5ホールに設けております。

平成24年12月～平成25年1月分実施項目

本　部

12月　5日(水)／会誌編集会議(協会会議室)
12月12日(水)／第6回利用促進委員会(協会会議室)
1月　9日(水)／会誌編集会議(協会会議室)
1月16日(水)／第7回利用促進委員会(協会会議室)
1月18日(金)／第7回輸送品質向上委員会(協会会議室)

支　部

●北海道支部
1月9日(水)／
講演会及び交礼会(京王プラザホテル札幌)

●東北支部
1月25日(金)／宮城県部会利用促進会議(仙台市内)

●東京支部
1月23日(水)／利用促進会議(東京都内)

●北陸支部
12月4日(火)／
高岡地区部会総会及び利用促進会議(高岡市内)
12月7日(金)／
富山地区部会総会及び利用促進会議(富山市内)

●近畿支部
12月8日(土)～9日(日)／
京都環境フェスティバル(京都市内)

●広島支部
1月25日(金)／広島地区利用促進会議(広島市内)

MONTHLY かもつ・12月号　第62巻・第12号　2012年（平成24年）12月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

MONTHLY かもつ

平成24年12月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可

MONTHLYかもつ 12月号 第62巻 第12号 頒価420円（本体価格400円 送料別 会員の購読料は年会費に含まれます）

ISSN 0913-9850